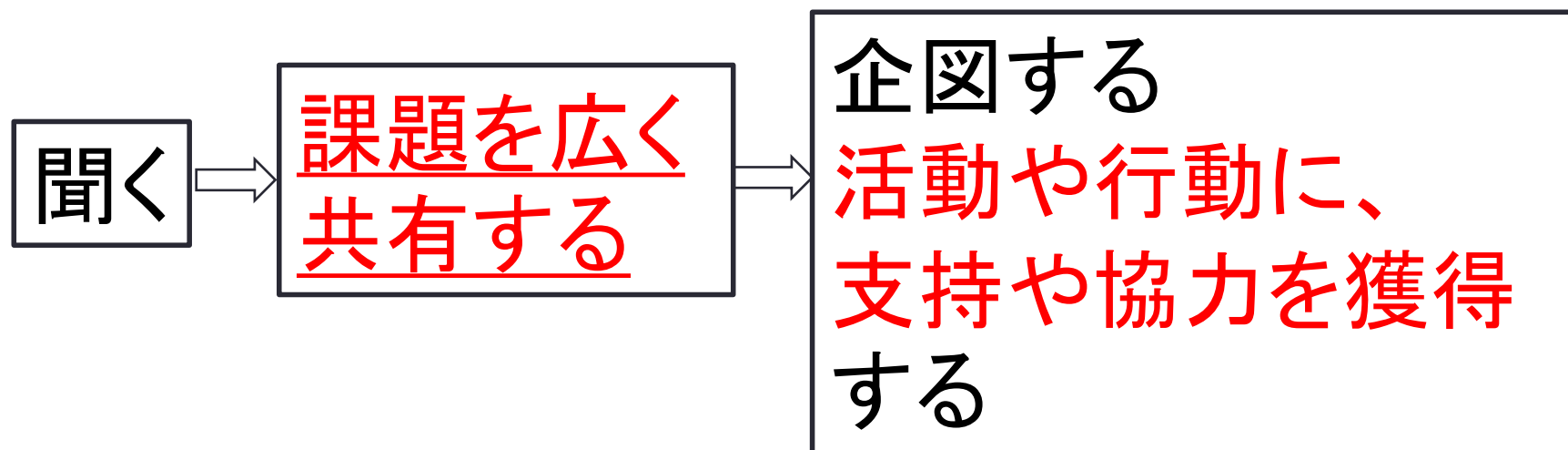


住民組織による アンケート調査を用いたコミュニケーション



住民としてアンケート調査を実施する目的は、防災・減災につながる行動であるため、



事例B: 岐阜県羽島市(H28.12~H29.5)

- 平成28年に地区防災計画を策定した、岐阜県羽島市の竹鼻南地区2,304世帯である。
- コミュニティセンターや防災士が防災活動を担うが、**住民による課題や計画の認知は十分でない。**
- 調査票と報告の全戸配布が可能であることを確認した。
- 地区の防災課題について、複数の担い手に尋ねた。
 - これまでに**取り組んできたことの意義や課題**が知りたい
 - ペット防災を提案したい**が、『人の事でさえ十分でないのにペットなんて』というのが現状 などなど

(1) 調査項目の設定

聞き取りから地区で確認/周知/活用が期待される項目を、3つの視点に整理した。

- ① 独自に作成配布してきたマップの活用状況や課題を共有したい。
- ② 立地的に外部支援をあまり期待できないが、避難所容量や備蓄などの課題を多くの住民が認識していない。
- ③ ペット連れで避難所を利用したい人もいるが、「人の事さえ十分でない」という現状から、解決しようとする課題に位置付けられていない。

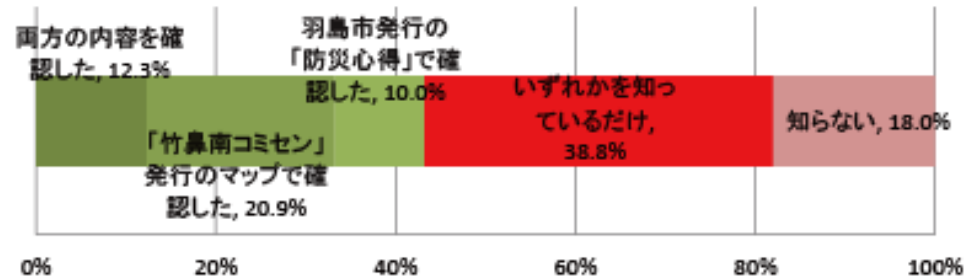
具体的には、年代や建築年数、ペット有無と避難所への同行意思、ハザードマップ活用状況、避難所の利用意向と移動時期、避難所を利用しない理由など。

(2) 調査票の配布

- ・ 調査票の配布: 住民組織が10区域中9区域の1,835世帯に配布し、1,321票(72%)の回答を得た。

(3) 明らかとなった 課題 (配布資料を参照)

② 防災関連マップの認知度と活用状況

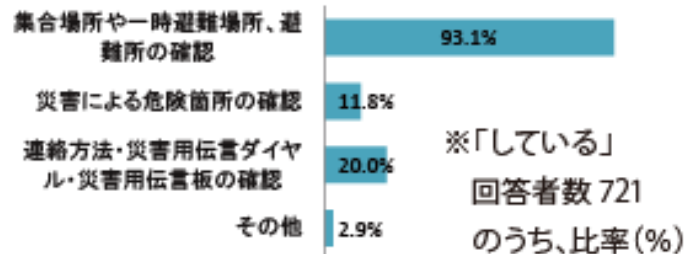


- 県内のハザードマップ認識率 (約 15%) の約 3 倍が確認出来ている。「知っているだけ」の人に、内容確認を促す機会づくりが課題である。

③ 災害に備えた家庭や 親戚 / 友人との話し合い



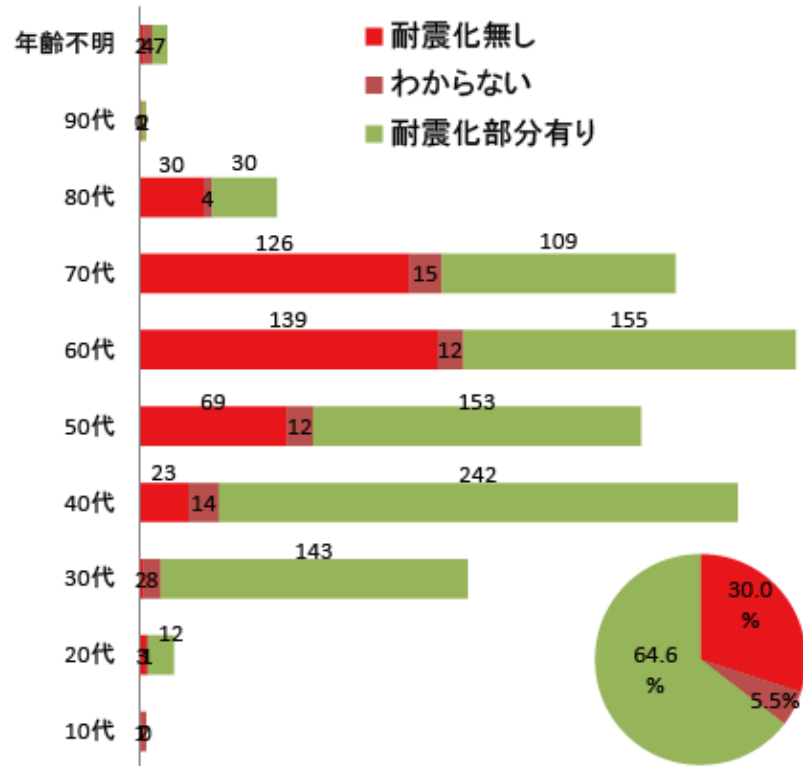
話し合いの内容 (複数回答可)



- 避難場所の話題が多く、情報提供が活かされている。他話題への発展が課題である。

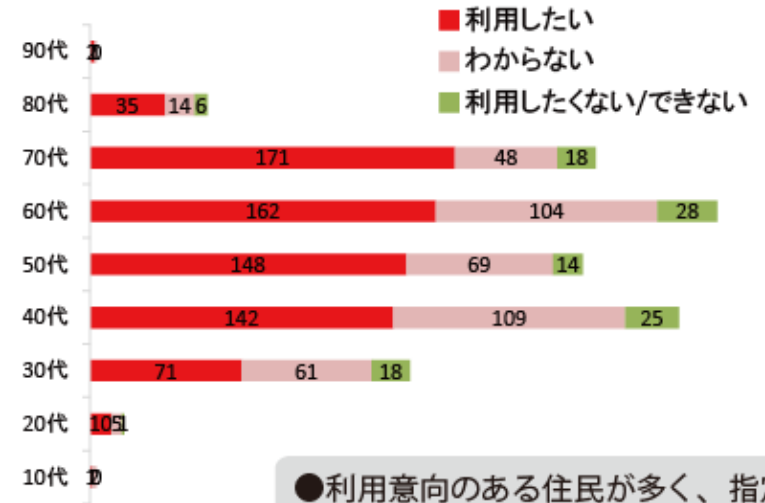
①避難所を利用する可能性について ※数値は回答者数。年齢は回答者のものであり、世帯構成を正確に表すものではない。

回答者の年齢と、住宅の耐震化状況



回答者の年齢は、60代と40代が多く、羽島市における人口ピラミッドと同様の分布になっている。

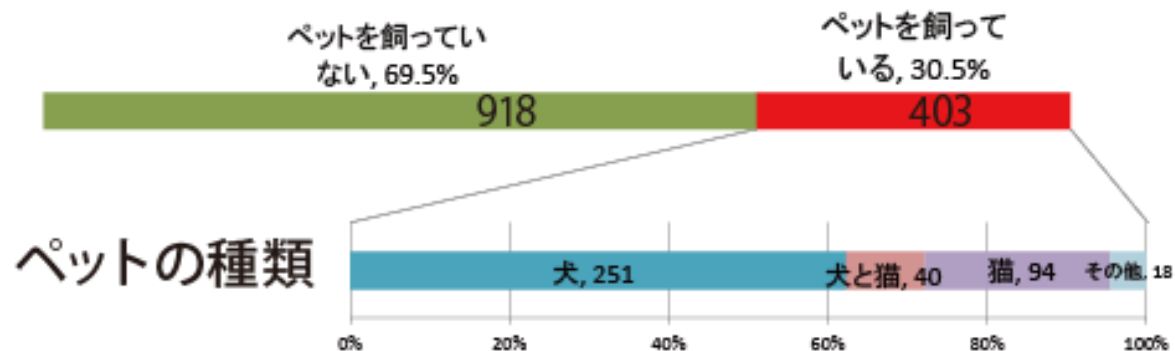
回答者の年齢と、避難所の利用意向



- 利用意向のある住民が多く、指定避難所の収容数には不足が予想される。
- 地区の計画としては、指定外の避難所設置や対応を視野に入れることや、避難所に行かずに済むための各戸の備えが課題である。
- 避難所では人口構造以上の高齢化が予想され、若い層との連携も課題である。

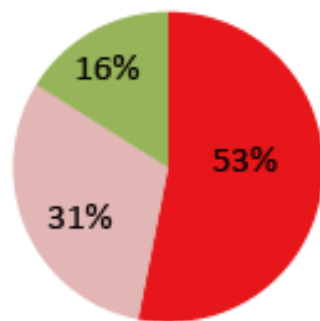
回答者全体における割合

⑦ ペットを飼っているか否か

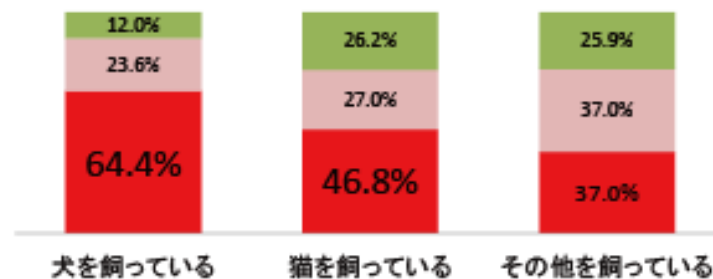


避難所にペットを連れて行きますか？

- 連れて行くと思う
- わからない
- 連れて行かないと思う



飼養者全体における割合



飼っているペットによる違い

- 避難所として受け入れが想定されていないにも関わらず、
多くの飼養者が避難所に連れて行こうと考えている。環境省のガイドラインにある「同行避難」が、室内への同伴可能と混同されている可能性がある。
- 人間の生活スペースでは「嫌い」「うるさい」「アレルギー」など様々な課題があり、付属施設を用いた受け入れも準備されていない現状の周知が課題である。まずは同行避難の訓練を試み、課題を明らかにして対応することが望まれる。
- 飼養者個人による備えの促進や、避難所以外の選択肢の確保が課題である。
- 避難所の付属設備や近隣建造物など、スペースの確保や、ルール設定などを予め検討しておくことが望まれる。

(4) 報告の配布と成果(新たな活動)

- 調査報告(配布物)は、住民組織の意見を反映して修正した
- 平成29年4月、共有したい結果と課題を全戸に配布。



成果(新たな活動)

避難所を利用する場合も、しない場合も、事前の備えが必要であるという課題を、以前より多くの地区住民が共有した(アンケート調査時点での反応)。

- 次回(H29.5)の防災訓練にて、避難所運営の課題を明らかにするため、ペット同行避難訓練を行う。